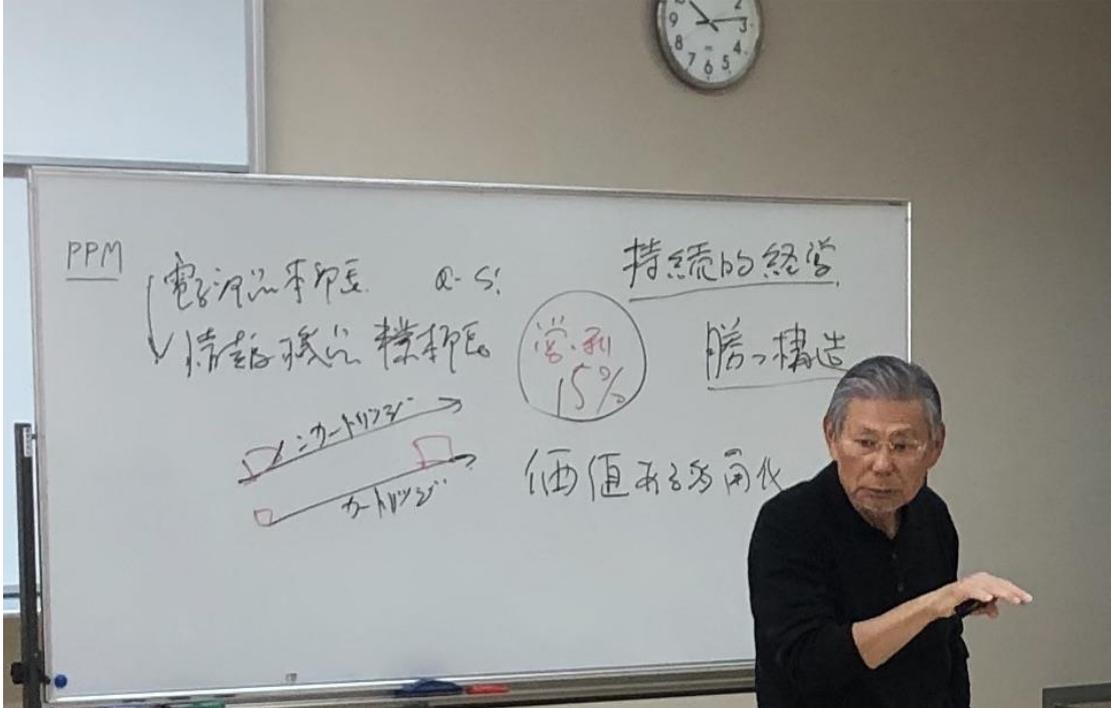


<概要紹介>

さる2019年11月18日(月)に、GPIC研究会の西口泰夫会長が一橋大学 MBA プログラムの講義「戦略分析」(担当：藤原雅俊)にゲスト登壇いたしました。



京セラ時代におけるエコシス(※1)の開発と事業化、そして全社的な資源配分戦略について受講者の皆さんと討議を交わした後、代表取締役会長兼 CEO を務めている Gyrfalcon Technology Japan における取り組みを紹介いたしました。

まずエコシスの開発と事業化については、競合他社がカートリッジ化を進めていた中で、追随ではなく差別化を試みてノンカートリッジ化を進めた当時の戦略観が論じられました。続いて、企業成長の柱とする事業領域を明確に定めてから押し進めた成長戦略の考え方について紹介され、当時の戦略的意思決定に関する質疑応答が交わされました。

そして最後に、技術に立脚した経営観に基づいて「技術で勝って事業でも勝つ」ための仕組みを作ることの大切さが語られ、さらに今後到来する AI 時代に日本が乗り遅れないために AI 人材を育成していくことが急務であるとの指摘がされました。予定時刻を過ぎてもなお熱い議論が活発に交わされました。

(※1) エコシスとは、1992年に京セラから発売された長寿命プリンタ。当時業界で主流だったカートリッジ式とは一線を画し、ノンカートリッジ化を実現した。環境に優しいこと(ecology)と経済的であること(economy)に特徴を持つことから、「エコシス」と名付けられた。1993年に日経優秀製品賞、1999年度には大河内記念技術賞を受賞した。

(文責：GPIC 研究会)